

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098400015		
法人名	有限会社 M & Y		
事業所名	グループホーム銀杏の木 (ひいらぎの棟)		
所在地	福岡県八女郡広川町大字長延630番地2		
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果確定日	平成23年3月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音楽に合わせた体操や嚙下体操を、毎日実施出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県道沿いの住宅が点在する中にホームは位置し、周囲には田園風景が広がっている。地域とは相互の行事や活動を通じて交流があり、今後は行政等との連携を模索しながら、認知症サポーター養成への取り組みを通じた認知症啓発活動への働きかけも視野に入れている。開設して5年目を迎え、少しずつ重度化している状況ではあるが、安定している職員体制による馴染みの関係の中で、本人本位の支援となるよう日々取り組んでいる。季節の変化を感じながら日常的に散歩に出掛け、地域住民との会話を楽しんだり、一人での散歩を希望する方には、さりげなく寄り添う支援が行われている。今年は敷地内に有料老人ホームが開設される予定となっており、地域拠点としての存在を示しながら、更なる展開が期待される事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有、実践に向けて職員ロッカーとリビングの目に付きやすい場所に掲示している。又、毎朝の朝礼時と全体会議時に、理念の唱和を行っている。	基本理念として「自由・安らぎ・温もり」と掲げ、地域密着型としての視点を含む、4項目の具体的な方針を示している。内部研修計画にも組み入れながら、職員間の共有を図り、実践につなげている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭や祭り、小学校の運動会見学、いきいきサロンへの出席も行っている。又、ホームでの縁日などの催しには、地域の方も招待するなどして交流を行っている。	いきいきサロンでのサークル活動や、地域行事への参加、事業所行事の案内を通じて、相互交流を図っている。散歩の際のごみ拾いも継続しており、日常的に自然体での交流が行われている。今後は、認知症サポーター養成講座の開催に向けて、取り組む意向がある。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトへ参加したスタッフが居り、その事を通じて認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている様努めている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では内容の充実を図る為、各委員の方々に必ず発言してもらう様努め、活発な会議を目指している。又、取り込める意見については、サービス向上に活かす様に努めている。	入居者、地域代表、民生委員、町役場職員等の参加により、開催されている。出席メンバーからの積極的な発言を促し、意義のある開催となるよう働きかけている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修開催の回数は減っているものの八女地区のグループホーム部会の研修へ参加したり、役場などへ出向き相談等の機会は増えている。	行政担当者とは、情報共有や相談等において、連携を図っている。またグループホーム部会等においても、情報交換を行う機会がある。今後は、認知症サポーター養成講座の開催に向けての連携を模索している。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修にて身体拘束の勉強会を実施するなど、全ての職員がしっかりと理解、認識し、身体拘束のないケアを実施している。	日中は施錠していない。門の無い、開放的な造りとなっており、外出時には寄り添うケアを実践している。夜間も無理な睡眠は誘導せず、温かい飲み物を提供しながら、ゆっくりと会話を楽しんでいる。身体拘束に関する内部研修が実施されている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての職場内研修を実施し、虐待防止についての理解徹底を継続して図って行く取り組みを行っている。	

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部より専門の講師を招いて全職員が受講しているが、活用支援出来るまでには至っていない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、活用に向けた支援やその必要性を検討した事例がある。外部講師を招いて研修を行い、制度に関する理解を深めていくよう努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等については十分な説明を行い、不安や疑問点には答え、理解、納得を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの不満、意見、苦情についてはその都度傾聴し、相談等に応じている。 意見箱も設置しているが、余り活用されていない。	年1回、家族懇談会を開催している。家族が意見を言い難いことを理解し、信頼関係の構築に努めている。出された意見や要望を大切に受け止めるよう努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議にて、意見交換や提案などを開く機会を設けており、反映させている。	ユニットごとに意見を集約し、会議の場で検討しながら運営に反映するよう努めている。業務や処遇について、活発な意見交換が行われており、意見の言いやすい職場環境作りに取り組んでいる。運営者自らケアに関わり、現状を認識している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、全職員に自己評価を行ってもらい、目標や成果、意見要望等を書いてもらう事により職場環境の整備に取り組んでいる。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢、経験等関係なくやる気を重視している。又、事業所で働く職員についても、自己実現が出来る様配慮している。	職員の採用にあたっては、やる気や人間性を重視しており、年齢や性別による排除は行わないようにしている。年1回、自己評価や個人面談を行い、今後の目標等を確認しながら、モチベーションを確保できるよう配慮している。外部研修への参加を促し、資格取得への支援も行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動については外部からの講師による研修により、各職員の意識を高め日々のケアにも浸透していくよう取り組んでいる。	尊厳や倫理観について、また認知症ケア、虐待防止等の研修を通じて、人権教育を行っている。外部からの講師も招き、継続的に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、積極的に参加させるようにしている。 研修参加者より全体会議において発表してもらっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女地区のグループホーム研修会には、必ず参加するようにし、交流の機会を増やし情報交換等でサービスの向上が図れる様取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接を行い、本人の要望、意志等を確認し、ホーム内の見学等をして頂き、納得した上で不安なく入所してもらえる様努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の話聞き、相談等には親身になって応じると共に十分な説明を行い、ホーム内の見学も含め、納得していただける様関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設で対応できないケースでも相談に乗り、他のサービス利用の紹介等行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、お互いに協力しながら生活しており、利用者の出来る範囲で役割を持ってもらい、寄り添い支え合う関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を取り、相談しながら共に支えていく関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など馴染みの人との関係作りの為、場所や時間を有効に使って頂き、馴染みの関係を継続して行けるよう支援している。	これまでの馴染みの美容室を継続して利用したり、地域の行事に参加している。家族や知人が来訪した際には、ゆっくりとした時間を過ごせるよう、環境を整えている。	

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者同士のふれ合いを大切にし、トラブルが 無い様個別対応も行いながら、お互いが快適に過 こせる環境づくりに努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた利用者の葬式には、ほぼ全職員で 参列している。退所された利用者、家族等相談事 はいつでも支援できる取り組みが実施出来る様努 めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人を理解、把握した上でコミュニケーションを とり、個人を尊重した支援を行っている。	センター方式を活用したアセスメントや、日々 の暮らしの中での関わりを通じて、思いや意向 の把握に努めている。一人での散歩を希望され る場合にも、さりげなく見守りを行いながら、納 得できるよう支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	日々の関わりの中で生活歴等、把握に努め、本 人にとってより良いサービス内容を見だし改善 していける様、取り組みを行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者の状態状況は、記録、申し送り等で各 職員が把握に努めている。状態状況を常に目配 りし、観察を行っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現 状に即した介護計画を作成している	本人を尊重し、家族等の意見も取り入れた実践 可能な介護計画を作成している。関係者等との 話し合いも行い、必要に応じ見直し評価もきち んと行っている。	本人、家族の意向を踏まえ、毎月の全体会議 の中で、カンファレンス及び丁寧なモニタリン グが行われており、個別のニーズを引き出し、 見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しなが ら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を分かった上で、正しくきちん と記録し、全職員が情報を共有出来る様努め ている。記録についての研修への参加も行って いる。		

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、その時々生まれるニーズに対応し、サービスを提供している。 外部からのマッサージ、病院へのリハビリ等、一部の利用者ではあるが多機能化に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の暮らしを支えている地域資源を把握し、地域とのコミュニケーションを図ることで、安心して楽しむ事が出来る暮らしを支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診を定期的に行っている。	本人、家族の希望や状況に応じて、かかりつけ医への受診に柔軟に対応している。また協力医との連携も図りながら、適切な医療活用となるよう、体制の整備に努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が情報を共有し連携する事で、日常の健康管理、医療活用を適切に支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換、退院に向けての相談を行い、早期に退院が出来る様に医療機関との連携を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応や終末期のあり方について説明を行い、看取り介護については同意も得ている。又、今後の変化への対応を、家族や医療機関と相談しながら検討している。	入居時に、重度化や終末期への対応について説明し、同意を得ている。変化に応じて、家族や医師との話し合いを重ねながら、方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備えて、職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。又、緊急時の対応マニュアルは、職員の分かる場所に常時設置している。		

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間、夜間想定の防火訓練を行っている。運営推進会議の委員の方にも参加して頂いている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、入居者や運営推進会議メンバーの参加を得ている。消防による、緊急時対応についての講習も行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての誇りやプライバシーを大切にし、一人ひとりに合わせた言葉かけ、対応を行っている。記録や個人情報の管理は保管場所を決めている。	個々の時間の流れを大切にしている。言葉かけや対応については、人格やプライドを損ねないように留意し、声の高さや声量についても意識を持って対応している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せる様に働きかけ、各自の理解力に合わせた説明を行い、本人の意思を尊重し、自己決定が出来る様に支援をしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の考えやペースを大切にし、毎日を安心して自由に過ごしてもらえる様支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する服、似合った服を職員と一緒に選び着ていただいたり、家族の協力を得ておしゃれが出来る様支援をしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲でお手伝いをしてもらい、職員と一緒に会話しながら楽しく食事をしている。	ゆっくりとした食事風景があり、後片付けを役割として、率先して力を発揮されている方もいる。ホームの畑で育てた野菜(ほうれん草・大根・トマト・きゅうり等)の収穫や味わいを共に楽しんでいる。また、食材業者の計らいにより、ホームでお寿司を握ってもらい、家族と共に楽しむ機会もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリーを計算された献立表を元に食事を作っている。利用者に合わせて食事形態を工夫し、水分摂取量を確保できる様支援している。		

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり声かけし、自力で出来ない方は、介助を行い清潔保持に努めている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗や、オムツ、パットの使用を減らす為に、一人ひとりの排泄パターンに応じて細めに声かけを行っている。又、オムツの方には陰部の清潔を保つ為に、清拭を行っている。	排泄チェック表により個別のパターンや状況の把握に努めながら、声かけやトイレ誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックし、水分補給の声かけを細めに行うなどし、運動量の増加にも努めている。又、服薬を調整し、便秘の予防に努めている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のタイミングや、希望、体調に合わせて、個別にくつろいだ入浴が出来る様支援している。又、入浴の回数なども希望に合わせている。	毎日、入浴準備を行い、個々の習慣や希望、状況にあわせて、柔軟に対応している。入浴を拒否される方にも、無理強いとならないよう配慮している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の居室が安心して落ち着ける場所になっており、安眠休息は出来ている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に基づいての、服薬支援を行っている。状態や症状の変化が見られた場合は、医師に報告し指示を仰いでいる。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節、天候に応じて散歩。午後には、ゲーム、歌などの活動を行い、一人ひとりの楽しみ事を支援している。		

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気、気温を考えながら、散歩を日課として行っている。その日の参加者の体調、意志を考慮しながら無理の無い様支援している。その月の行事に合わせてドライブなども行っている。</p>	<p>少しずつ重度化していく中ではあるが、出来る限り外気に触れられるよう支援している。季節の変化を感じながら、散歩を日課としている方もおり、途中でのごみ拾いを役割として継続している方もいる。一人での散歩を希望する方には、さりげなく見守りながら、安全面の確保を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの利用者が施設で管理を行っているが、病院受診等の支払い、本人の希望や必要に応じて使えるように支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>要望があった時は本人自ら電話をしたり、又、家族に連絡を取るなどの支援を行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関に観葉植物を置き、リビングには、ボードに季節感のあるレイアウトを施したり、花を飾るなどをしている。季節によって、室内の温度を調節したり、リビングでは動きやすいようにテーブルを配置している。</p>	<p>日あたりの良いリビングからウッドデッキへとつながり、田圃の様子や車の往来を眺めることができる。ソファの設置や、ウッドデッキにも椅子やベンチが配されており、それぞれの方にとってのくつろぎの場所がある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには、4人掛けのテーブルを3ヶ所に設置し、気の合った利用者同士が席を共に出来る様になっている。ソファも自由に使用され仲良くされている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の方において、家族の写真や馴染みの物を持ってきていただき置いている。</p>	<p>表札が掛けられた各居室には、箆笥や仏壇、テレビ等が持ち込まれており、安心して過ごせるよう配慮された部屋作りとなっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>あらゆる場所に手すりを設置し、安全に動ける様にして危険につながるものを置かないよう工夫している。居室の入り口に表札をつけるなどして、個人の部屋が分かるようにしてある。</p>		